

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●チャンピオンズカップはゴールドドリームが優勝

12月3日(日)に行われたチャンピオンズカップ(G I)ではゴールドドリーム(牡4歳/栗東・平田修厩舎)が優勝しました。同馬は本年のフェブラリーS(G I)も勝利しており、同一年にフェブラリーSとチャンピオンズカップ(ジャパンカップダート)を制覇したのは、2000年のウイングアロー、2011年のトランセンドに続き史上3頭目のこととなります。

●ステイヤーズSはアルバートが3連覇達成

12月2日(土)に行われたスポーツニッポン賞ステイヤーズS(G II)ではアルバート(牡6歳/美浦・堀宣行厩舎)が優勝、同レース3連覇を達成しました。平地同一重賞3連覇は、JRA史上7頭目のこととなります。

●ワイドでJRA史上第1位の高額払戻金が飛び出す

12月3日(日)の4回中京2日・第7レースでは、15番人気のディスクカバーが1着、14番人気のメイショウナンプウが3着に入り、ワイド11-15の払戻金12万9000円(120通り中114番人気/的中75票)は、ワイドにおけるJRA史上第1位の高額払戻金記録となりました。またディスクカバーの単勝4万5010円と複勝1万1030円は、それぞれの式別における中京競馬史上第1位の高額払戻金記録。さらに2着には6番人気のスズカフューラーが入っており、3連単15-14-11の2294万6150円(3360通り中2879番人気/的中3票)は、3連単におけるJRA史上第3位・中京競馬史上第1位の高額払戻金記録となっています。

●岩崎翼騎手がJRA通算100勝を達成

12月3日(日)の4回中京2日・第6レースでは、セングウが1着となり、同馬に騎乗した岩崎翼騎手(栗東・河内洋厩舎)は、現役88人目となるJRA通算100勝(2272戦目)を達成しました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●プリンシアコメータがクイーン賞で人気に応じて逃げ切り勝ち

クイーン賞(Jpn III、12月6日、船橋、1800m)は、先手を取ったプリンシアコメータ(岩田康誠騎手、牝4歳、父スバイキュール)が2番人気のアンジュデジュールを3馬身引き離し、1番人気に応じて重賞初制覇を果たしました。タガノヴェローナは4着、3番人気のアンデスクイーンは6着でした。

●チャレンジCに挑んだスーパーマックス(佐賀)が5着と健闘

チャレンジC(G III、12月2日、阪神)にJRA認定馬の資格で出走したスーパーマックス(佐賀)は、好位から一旦後退したものの直線で盛り返し、5着に入っています。

●12月13日の全日本2歳優駿(川崎)はルヴァンスレーヴが有力

全日本2歳優駿(Jpn I、川崎、1600m)は、ダートで2戦2勝のルヴァンスレーヴが最有力、以下ドンフォルティス、ハヤブサマカオー、ダークリパルサー、ソイカウボーイ(北海道)、ビッグスモークキーまでが争奪圏内と考えられます。

●トップディーヴォらが参戦、12月14日の名古屋グランプリ

名古屋グランプリ(Jpn II、名古屋、2500m)は、JRA勢ではトップディーヴォ、オールブラッシュ、メイショウスミトモ、クリノスターオー、タガノディグオの順に有力ですが、カツゲキキト(愛知)にもダートグレード競走初制覇のチャンスがありそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●今年のロンジンワールドベストジョッキーはボウマン騎手

IFHA(国際競馬統括機関連盟)が発表する今年のロンジンワールドベストジョッキーにオーストラリアのH.ボウマン騎手(37歳)が輝きました。これは昨年12月1日から今年11月30日までに行われた「世界のトップ100G1」における着順によるポイント(1着12、2着6、3着4ポイント)の合計で争われるもの。ボウマン騎手は、ウインクスとのコンビで制したG1コックスプレートなどオーストラリアでG1・6勝をあげたほか、日本でもシュヴァルグランでG1ジャパンカップを制すなど対象のG1に10勝。142ポイントを獲得して初の栄冠を手に入れました。2位は124ポイントをあげたR.ムーア騎手。JRA所属の騎手ではM.デムーロ騎手の10位(56ポイント)が最高位でした。

●2018年の米国G1は106レース

2018年の米国グレードレース一覧が12月1日、米国グレードレース委員会から発表されました。グレードレースに認定されたのは今年に比べて9レース減となる455レース。このうち、G1は昨年より1レース減の106レースで、デラウェアH(7月、デラウェアパーク競馬場、3歳以上牝馬、ダート10⁰⁰)がG1からG2に格下げとなりましたが、G1へ昇格したレースはありませんでした。